



# 大杉谷国有林からの手紙



## 32通目 ～森林植生の回復を目指して！(2)～

平成30年度もはや3か月目となり、三重森林管理署の事業も始まっています。今回の手紙では、シカ被害対策の最終目標である森林植生の回復に向けた取組について平成30年度事業を主体に、ご紹介します。

### (1) これまでの取組

シカの食害により裸地化した未立木地に、平成25年度からブナ、ミズナラ、ヒノキの植栽を始めましたが、「秋植えでは寒風や乾燥により植栽木が枯損した」、「丸太筋工が霜により地際から浮き上がった」などの失敗事例も発生しました。

また、標高が高く厳しい環境であるため多様な樹種の地域性苗木の植栽や、防鹿柵の材質（金網かネット）等は費用対効果も考慮しながら実施しています。



これまでの対策実施箇所

なお、平成29年度は鉄製の柵（フェンス）で外周を囲み、その中をネットで仕切り、万が一、シカが柵内に侵入した場合においても、被害が最小限に止められるようにしました。

平成29年度実施箇所



### (2) 平成30年度の取組

平成30年度は、地池林道終点から稜線部に位置する大規模な未立木地において、雪解け後の4月に行いました。なお、当該地は、一部で土砂の流出も見られる箇所です。

そのため、大面積を1つのフェンスで囲むことは、沢部を横断することになり、台風時に大量の土砂の流送が発生した場合、植生保護柵が破壊される恐れがあることに

平成30年度防鹿柵設置作業





留意して、表土が比較的安定しているところに、周囲長50mの防鹿柵（パッチディフェンス）を金網で10箇所、ネットで33箇所、点状に配置し、その中にミズナラ等24種類の地域性苗木を植栽しました。

また、根株などでシカの食害から守られていた天然稚樹をできるだけ活かしていきました。



平成30年度対策実施状況

### （3）森林植生状況の変化の把握

植栽箇所を含めた森林植生の回復状況について、5年毎に衰退と回復を確認するため、森林植生把握調査を実施していくこととしています（植栽箇所については、毎年定点撮影を行い把握）。

これからも多くの課題が出てくるものと思いますが、水質日本一に度々選ばれた全国有数の清流である宮川の源流となる大杉谷国有林の森林植生の回復を目指して取り組んでいきます。 植栽した地域性苗木



**発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官**